



# 日本共産党市会議員 館田るみ子活動だより

第46号

二〇一二年四月  
日本共産党東青地区委員会  
青森市中央三丁目二一―十五  
TEL 七七七―七二四一  
市役所内TEL 七二二―八九〇四

## 標高地図の作成を

「海岸沿線地域では、標高が分かる目印が必要との声があがっている。新潟市でおこなっている標高地図をホームページ等で公表し、地盤の高さを分かるようにしたらどうか」との館田市議の質問に「新潟市を参考に調査検討してまいります」と答弁がありました。

## 新城私道の整備を

館田市議が六月と九月議会でも取り上げてきた新城・北平岡の私道は、昭和五十八年に町会一同の署名を添えて市議会に陳情が提出され、全議員の賛成で採択されていることが分かりました。また、土地所有者の遺族五名から「舗装・側溝などの工作を行うことを承諾し、将来にわたり意義を申し立てたり、権利を主張する等の行為は一切しません」という確約書が提出されていました。館田市議は「議会で採択し、所有者の遺族から確約書も提出されているなら、残っている道路についても整備すべき」「他都市では、土地所有者の承諾があれば、市が工事をおこなっている。先進例に学んで解決を」と求めました。

## バス路線

# 郊外29路線が切り離され、民営化 古川までの直通便なくすなの声

館田るみ子市会議員は、三月議会の一般質問で、競輪事業とバス路線の見直し、防災対策、患者の窓口一部負担金減免制度、私道の整備について質問しました。

青森市は、二十三年から二十八年年度までの間に、現在運行している四十九路線のうち、郊外の二十九路線を市営バスから切り離し、支線と呼んで民営化しようと計画しています。そのために昨年の十月から毎月、孫内、岡町、矢田・滝沢地区で、地域の公共交通を考える住民懇話会を行ってきましたが、十月から、民間委託でバスの社会実験を行いたいと提案がありました。

## 通勤・通院の足奪うな

岡町線は、要望が多かった買物のため古川までの直通便のほかに、朝夕は西部営業所から油川駅行きをつくり、通勤・通学の方は、油川から電車を利用して下さいという計画になっています。館田市議は、バスを利



岡町地区での住民懇話会

## 通勤時間帯の古川直通便は復活

三月十五日の岡町地区での住民懇話会には、通勤時間帯の古川行きが追

## 競輪事業への投資はやめて 廃止の準備を

競輪は、入場者と売り上げの減少が続く、廃止している自治体が増えています。

青森競輪は、民間委託をして年間一億円の繰り入れを確保していますが、市は、コストの削減と収益を増やすために「ファンサービスの無料バスを廃止し、交通の便利の良い中心市街地などへ新たな場外車券売り場を設置する検討をはじめました。」

館田るみ子市議は「競輪は、今後も厳しい状況が続く、先行き不透明なのに新たな出費をすべきでない。それより、特別会計の基金が残っているうちにやめて、ギャンブルでなく、雇用の場の確保と市民が喜ぶ動物園やスポーツ、レクリエーション施設として活用していく方向に転換すべきでないか」と市の考

えをただしました。

伊藤哲也企画財政部長は「税負担が生じない限り、継続を基本とし、新場外車券売り場の選定については街づくりの視点も考慮して検討していく」と答弁しました。

「新たな施設を建設するのに用地費を除いて一四億円余もかかる、計画どおりに収益があがらなければ、市税が投入されることになるのではないか」「公営ギャンブルである競輪の場外車券売り場が観光や街づくりに良い影響を与えることになるのか」との質問には答えることはできませんでした。

市は、雇用と経済効果を理由にこのまま続けようと考えているようですが、その一方で「市税投入は市民の理解は得られない。その時は廃止せざるを得ない」とも表明しています。館田市議は「赤字になる前に競輪事業の廃止の準備を始めるべき」と提案しています。